

【調査の目的】

- 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

【調査の概要】

- 「大阪府」とは「大阪・公立学校」の結果を表しています。
- 中学2年の「理科」はA・B2種類の選択問題があり、本市では問題Aを7校(1,321名)が、問題Bを11校(1,522名)が選択しました。
- 中学2年の「社会」はA・B2種類の選択問題があり、本市では全校が問題Aを選択しました。
- *理科の選択問題については、各学校の年間カリキュラムでの指導内容によって選択しています。

- 実施校数及び実施生徒数
- 学力に関する調査
- 生徒に対するアンケート
- 中学1年:18校(2,782人)
- 中学1年:国語・数学・英語
- 全学年・教科で各2問
- 中学2年:18校(2,836人)
- 中学2年:国語・社会・数学
- 理科・英語

【調査結果の取扱い】

本調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのため、序列化や過度な競争を目的とした取扱いにつながらないように十分配慮をお願いいたします。
調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各生徒の一般的な学習状況の改善等につなげることが重要と考えます。

学年	教科	平成28年度		
		高槻市	大阪府	差(対大阪府)
1年	国語	71.1	68.3	+ 2.8
	数学	57.0	52.5	+ 4.5
	英語	68.4	62.7	+ 5.7
2年	国語	61.1	58.1	+ 3.0
	社会A	47.4	43.8	+ 3.6
	数学	56.6	51.3	+ 5.3
	理科A	65.5	60.2	+ 5.3
	理科B	62.9	60.1	+ 2.8
	英語	59.3	53.3	+ 6.0

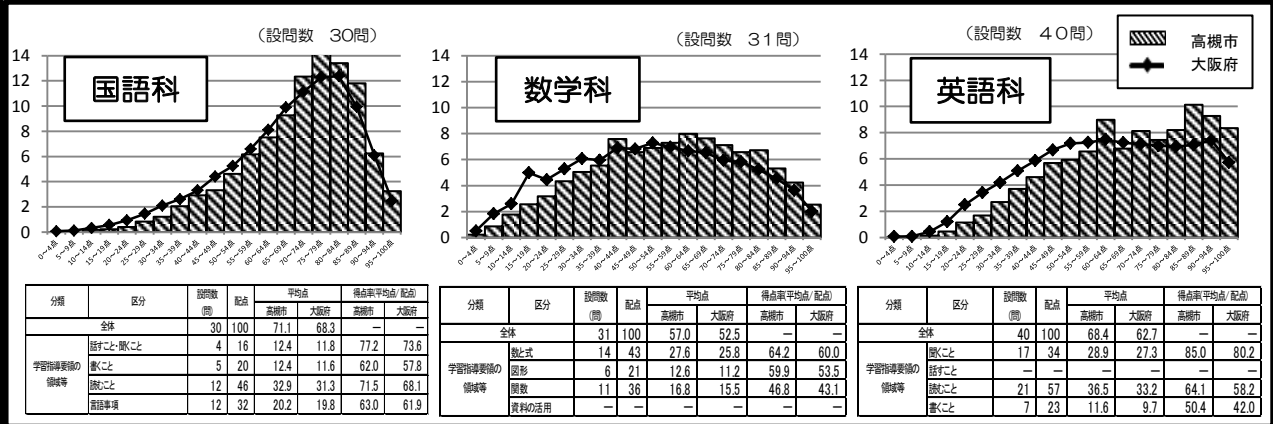
チャレンジテストの検証にかかる高槻市教育努力目標

確かな学力の育成

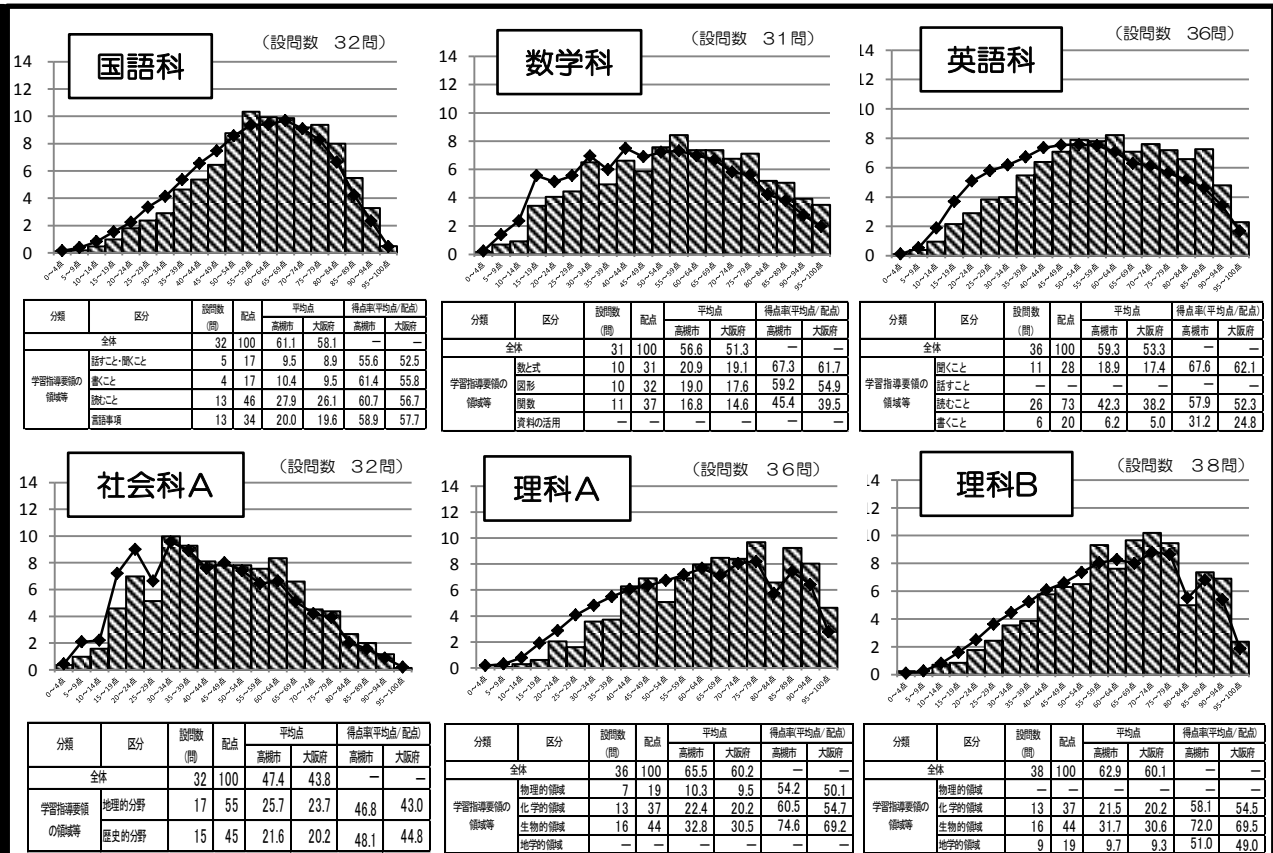
- 「自ら学ぶ力」の育成を重視し「学習意欲」の向上を図るための取組の推進
- 学習指導要領に示された各教科等の目標を実現するための授業改善の推進
- 思考力・判断力・表現力等を育成するための各教科等における言語活動の充実
- 言語に関する能力育成の中心的な役割を担う教科としての国語教育の一層の充実
- 数学的活動の充実、既習事項を活用する授業の推進と学習意欲の向上
- 中学校英語科における、4技能のバランスの取れたコミュニケーション能力の基礎の育成
- 蔵書の充実と読書環境の整備による学校図書館の積極的な活用の推進

第一学年

得点分布グラフ 横軸:得点(点)、縦軸:割合(%) 領域別平均正答率/ 対大阪府比



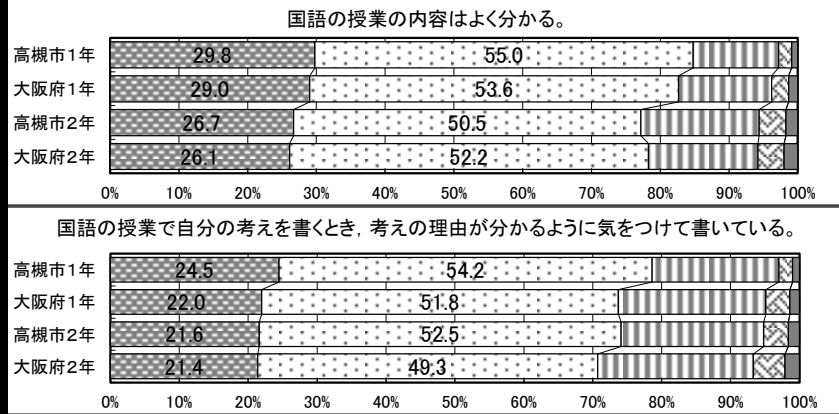
第二学年



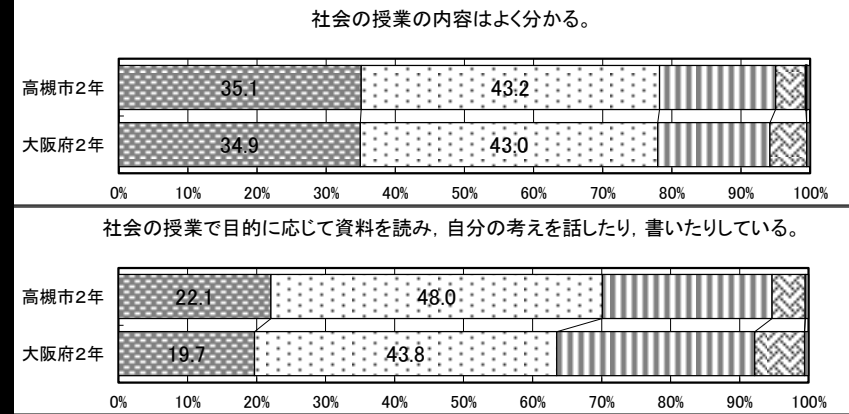
平成28年度中学生チャレンジテスト 生徒に対するアンケートの結果

□1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる ▨3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない 田 その他 罫 無回答

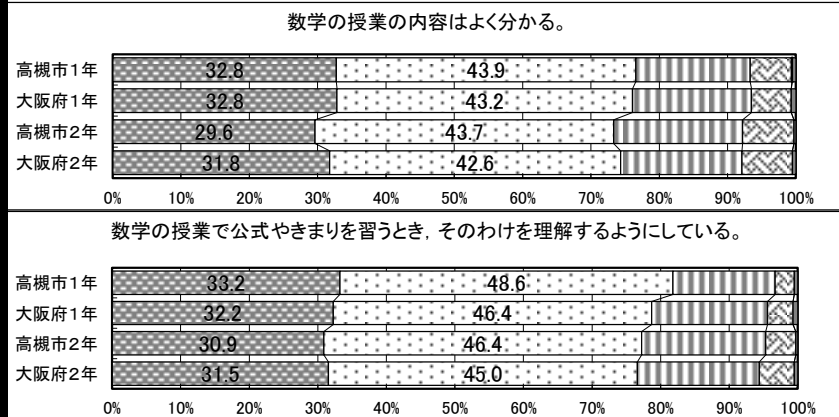
国語科



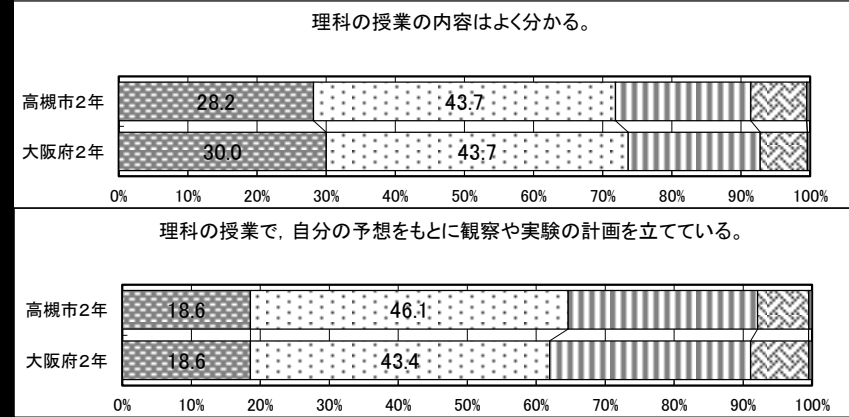
社会科



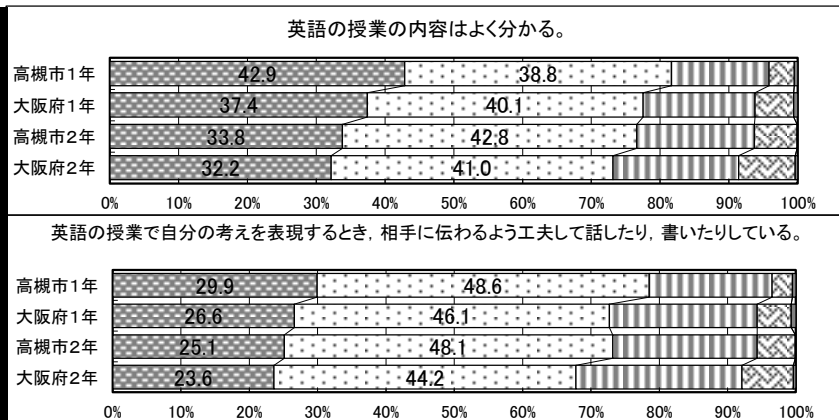
数学科



理科



英語科



【調査結果について】

「授業の内容がよく分かる」の質問では、第1学年は全教科で肯定的な回答の割合が大阪府の平均値を上回っています。一方で、第2学年は、国語、数学、理科で大阪府の平均値を下回っています。

「授業の内容がよく分かる」以外の各教科の質問項目については、全ての学年、教科で肯定的な回答の割合が大阪府の平均値を上回っています。

* 肯定的な回答とは、選択肢のうちの「当てはまる」・「どちらかといえば当てはまる」と回答した合計のことです。